カトリック高松教区報

２０１５年９月６日（第１６８号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：　yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉
平和は私にとって、神様と同一です。キリストは神さまの平和です。私の心は彼に開かれています。私は彼に生涯をささげました。そして、彼を信じれば信じるほど、ますますよく理解できるのです。

戦後70年の夏　平和への思い　高松教区司教　諏訪榮治郎

戦後70年の夏、わが国が憲法９条に沿った歩みを守り続けるのか、または「解釈」をもって日米安保条約をさらに踏みこんだ「集団的自衛権」の道を選ぶのか、重大な岐路に差し掛かっています。

私の68年、それがどんな時代で、これからどのように歩むのか大変危機感を持っております。

入学した小学校（昭和29年）は焼夷弾を落とす米軍機Ｂ29の標的にならぬようコールタールで一面真っ黒に塗られていました。裏山には防空壕がいくつも残っており、私たちの格好の遊び場でした。壕のいくつかは農具の置き場でしたが、まだ人が住んでいました。　恐る恐る入った壕の中には、兵士の長靴や水筒、こちらを見ているようなガスマスクなどがほこりにまみれて捨てられていました。背筋が凍るような体験でした。

実家の北丘はアメリカ占領軍の家族が豊かな生活をしておりました。我が家の墓は占領軍の敷地内にあり、墓参のたびごとに怖い惨めな思いをしたのを覚えています。

高校生のころベトナム戦争が始まり（１９６５年）、次第に大きな渦となって反戦運動が米国本土でも、日本の各大学でも広がりました。

「平和のためには武器を捨てる」
沖縄・辺野古、「フクシマ」を思う

その中で、社会のあり方、大学のあり方が問われ、私たちの神学院も第二バチカン公会議の精神を生きる方向へと教育方針が切り替わりました。

司祭になり大阪の中心地にある教会に派遣されました。聖書の輪読会で「ハイ次の方お願いします。」「・・・」そこには聖書が読めない方々が大勢おられたのです。朝鮮半島から来られた方々でした。「なぜこんなにたくさんの方々がここに?」

うどん作りを楽しむ福島の子達

一生懸命でした。

被爆国として核廃絶を訴えている国民が放射能（セシウム）に関してまったく無知であり、地震大国であるにもかかわらず、54基の原発を将来残す私たちは、「本当のことを知らねばならない」、と子どもたちから訴えられている思いがいたしました。

平和行進する高松区信徒たち

広島平和行事（８／５-６）では、沖縄県の辺野古に住まわれている伊佐さんの現実を伺いました。彼女の住む高江村を囲むように12基のオスプレイヘリパッドが建設されたのだそうです。　それに反対したご主人は今、国から起訴されているのだそうです。核を持たない持ち込まないと「宣言した」国が、緑豊かで美しいやんばるの人々の生活を軍備で固め、日米はそんな平和を築こうとしているのです。日本国憲法よりも「日米安保条約」が優先されているのです。

教皇ヨハネス23世の「地上に平和を」（１９６３年）から「第二バチカン公会議」における カトリック教会の平和論は「平和のためには、武器を捨てる」と言うものです。教会はこの「理想」を大切にいたします。

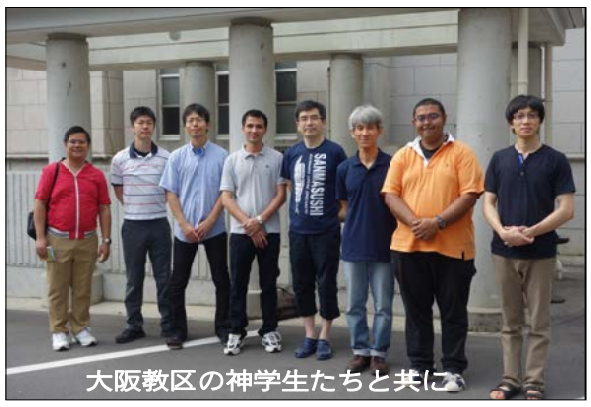
「平和を語ろう会」（８／13徳島教会）で印象に残った言葉がありました。

「私たちは社会で起こるさまざまな「現実」に合わせた対応をもって解決を図るのではなく、常に「理想」を堅持しつつ「現実」に対応すべきだ。」という言葉です。　私たちは「理想」を失ったとき、あらゆる力（闇の力）や目先の情報を無反省にうのみにし、判断を誤ってしまう危険が常にあります。

平和を築くために「本当のことを知る」必要があります。知った時、私たちはロバから降り、隣人に近づくことができるのではないでしょうか（ルカ10-32）

7月27日晩から29日朝にかけて、大阪教区の大司教様、養成担当神父様2名、そして神学生5名が高松司教館を訪問されました。

高松教区側は、諏訪司教様はじめ、司教館付の神父様方や神学生がお迎えしました。


大阪教区の神学生たちと共に

暖かい交流のひととき
大阪教区大司教ら高松訪問

総勢10数名の食卓は、和気あいあいとした楽しい時間であり、そして、神学生にとって司教様方や神父様方の想いを伺う学びに満ちた時でありました。

短い日程でしたが、共に語り合う貴重な交流の時を頂くことが出来ました。

神学生同士も、神学校とはまた違う雰囲気で、楽しい交流となりました。

大阪教区の皆様は、今回の訪問を通じて、教区を超えた繋がりを示して下さいました。多くのご寄付も賜りましたことも告申し上げます。

また、この交流会のために宿泊場所を提供下さった聖母被昇天修道女会のシスター方、また多くの支援を下さった近隣の信徒の皆様にも心より感謝申し上げます。

両教区の司祭団と神学生のために、これからもお祈り頂けましたら幸いです。

高松教区神学生
高山徹

「戦後70年 平和を愛する人は幸い」
歌って踊って平和を語ろう in 徳島

今年も8月12日から13日にかけて諏訪司教参加のもと、阿波踊りのお囃子の中での研修会となりました。

戦争はいけないこと

私はこの研修会で初めて知ったことが多く難しい事柄だと思いました。

でも、石津剛彦先生（弁護士）のお話やＤＶＤの映像から、今の日本でどのようなことが行われようとしているのか、また日本のためにどのようなことが出来るのか、一人ひとりが真剣に考えなければいけないな、と思いました。

新聞やニュースをじっくり見ることもなかったので、これからは毎日少しでも見て学ぼうと思いました。また、戦争法案に反対している人の意見をよく聞いて、戦争はいけないことと思うのに、何故そのような法案を作ろうとしているのかについても、よく聞いてみたいなと思いました。

分かち合いでは、ベトナムの方々とかかわってみて、枯葉剤や妊娠中絶など、日本と違った、また同じ問題もあるんだと知ることが出来ました。

マリア幼稚園　池内菜生子

戦争もっと考えよう

今までこういう問題をたくさん見過ごしてきていたと、この機会に実感しました。今、日本は豊富な食べ物や便利さが溢れています。

戦争の時代を必死に生きてきた人たちが、どんな経験をし、どんな想いでおられるのか、わたしたちも知り、考え、また伝えることが大切な義務なのじゃないかと改めて思いました。

わたしたちは戦争を大昔のことと捉え、身近なことと思えず、危機感もなければ、平和が当たり前のように思っていたところもありました。そんな考えが普通にならないように、若い人たちも正しい情報を知り、考えていく必要があると思いました。

マリア幼稚園　細川綾加

講話に聞き入る若者たち

「地上に平和」のスクリーンを見る

「戦争は人間の仕業です」
桜町教会　平和を祈るミサ

去る8月2日（日）に桜町司教座聖堂で「平和を祈るミサ」が捧げられました。

その導入として、１９８１年2月、広島での聖ヨハネパウロⅡの「戦争は人間の仕業です。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です」との平和アピールが朗読されました。

ミサの説教では平和について学び、祈る努力から、何より行動することが大切と、諏訪司教は時間を延ばして熱く語られました。

共同祈願の中でも平和のための祈りとして、「一人ひとりを通して、この世界に平和を望んでおられる神よ、主の平和から離れてしまう私たちをお赦しください。弱い私たちがあなたの大きな愛に満たされながら、希望のうちに主の平和を実現する人となることができますように」と、私たちがゆっくり留まって、神の平和を愛するものとして導かれるように祈りました。

ミサに引き続き、平和コンサートが開催され、諏訪司教と共にマリア像の前で平和を誓うキャンドルサービスと、「地上に平和」のスクリーンビデオをみながら、第２バチカン公会議からの50年の世界の歩みを第１部とし、第２部ではハンドベルの演奏、詩吟、ソプラノ独唱や賛美のコーラスを楽しむプログラムを楽しみました。

桜町教会　岡淑子

はばたき

国家課題の柱の一つである安全保障に関し、今、極めて巷間喧しい状況にあります。私たちキリスト者も国民の一人として、過去を振り返り、未来を展望し、何が適切な選択なのか熟考する必要がありましょう▼元来、安全保障とは、国外からの脅威に対して国内の安全を確保するためのシステムや体制を指すものなのですが、果たして脅威は国外にのみ存在するのでしょうか▼決して不安感を助長させようとするものではありませんが、国の内・外という単純な境界線だけで区分してよいのか時々、迷うことがあります。自身の内・外についても同様です。内を堅固にするほど排他的となる危険性も高まります▼自分のことは自分がもっともよく分かっていると私たちはつい考えがちですが、実は自分のことゆえに必ず主観が含まれ、真の姿が見えづらくなるとも言われます。冷静になって、客観視するよう心がけることの意味は、そこにあります▼本教区報がお手許に届くのは、「聖母の被昇天」の八月十五日から二週間あまり経過した後かと思いますが、今からでも遅くはありません。内と外の両視点から自らの日々の信仰のありようについて、今一度立ち止まって考え直してみませんか。

小教区紹介
坂出教会（香川）

カトリック坂出教会は、ＪＲ「坂出駅」南口より徒歩５分の所に位置し、戦後ドミニコ会によって創立された教会です。現在の聖堂は三つ目で１９９９年に「光と水の教会」として献堂されました。

主任司祭は中米ニカラグア出身の　ホルヘ・ソーサ神父さまです。聖マルチン病院と向かい合い、聖ドミニコ宣教修道女会のシスターの祈りと共に

地域の祈りと交わりの場

市民の心の拠り所として、宣教の場としての大きな役割をもつ教会です。

信徒数二百名足らずで、主日のミサは土曜日の夕方と日曜日に行われ、祈りを通して「地域と共にあって、祈りと、交わりと、奉仕の共同体」づくりを目指しています。

神父様のイエス様への真摯な信頼が聖堂中に漂い、吸込まれる主日の祈りです。信徒も国際色が豊かになっています。

全体の交流会をもち「何に困るか」をたずねると、やはり「言葉」という人が多く、月に2回程度、ミサ後に聖書と典礼および日常会話の勉強会を始めています。

ここ三ヶ月間ドミニコ会のペトロ助祭さんが在坂中なので特にベトナムからの方（信者でない方も一緒に）が熱心に参加されています。食文化の交流にも発展することを目指しています。

信者の高齢化も進んでいますが、会長さんを筆頭に役員さん方が、まだまだ大きな役割を受けてくださって、ミサ準備、生け花、会計、環境整備などにパワーを発揮してくださって、何を手伝うにもリードが上手く、和気藹々と楽しく進みあっという間に終わります。また、後継者の育つのを待っておられる姿も垣間見られます。

神父様はその様子を満足そうに覗いて下さいます。因みに私の長男と同い年でより親近感を覚えます。神の豊かなお恵みが坂出教会に注がれますように祈る毎日です。

坂出教会　佐柄和子

『典礼奉仕』のために (21)

典礼聖歌についての解説　その２

高松教区典礼委員長　谷口広海

１６７号では第２バチカン公会議後、まず最初に発表された典礼憲章から導き出された典礼聖歌の誕生までについて見てきました。今回はローマ初代教会から現代までの聖歌の変遷について見ていきます。

ローマ帝国時代、当時の言葉としてラテン語が用いられていました。聖歌もすべての信徒が意味を理解してラテン語で祈り、こころからの祈りとして歌うことができていた様です。

時代を経て、ラテン語が生活言語でなくなるにしたがって、人々はラテン語が分からなくなり、さらに、歌い方も聖歌自体も複雑になってきました。

聖歌はだんだんと教役者・修道者、あるいは、訓練された聖歌隊だけでないと歌えなくなります。

そして宗教改革の頃に教会音楽は大きく変わりました。

ルターが会衆賛美歌の普及に尽くす一方で、貴族の宮廷や大聖堂では、そこで雇われたバッハ、モーツァルト、ハイドンといった、音楽家が作曲・演奏に携わります。

今、私たちが聴いている有名な作曲家の作った教会音楽は、そんな時代背景の中で作られました。ですから小さな教会では、とても演奏はできません。

信徒の「行動的参加」を第一に考えた『典礼憲章』は、１１７条でグレゴリオ聖歌の規範版として「小さな教会で使用するため、簡単な曲を集めて出版することは有益である」、１２２条で教会音楽全般について「真の教会音楽の特徴を備え、大きな聖歌隊で歌えるようなものだけではなく、小さな聖歌隊に適し、信者の集まり全体の行動的参加を促進するような曲を作曲しなければならない」と述べています。

『典礼聖歌』は、これらの『典礼憲章』や、『典礼音楽に関する指針』の規定に従って作られているのです。

ことばについても考えてみましょう。

典礼を国語の口語にするか文語にするか、文語といっても千数百年の歴史があり、どの時代の文語にするのか。

典礼憲章実施評議会が１９６９年に発布した『典礼憲章の翻訳に関する指針』の具体的示唆として「一般に使われていることば、すなわち『こどもやどのような人々』）をも含めて、大多数の信者が日常使っていることばを選ぶべきである。それは悪い意味での『俗語』ではなく、『崇高な実在を表現することのできる』ことばでなくてはならない。原則として典礼文は教育に与れなかった人も含めて、だれもが理解できるものでなければならない。」

現在の『ミサ典礼書』の式文も、それに基づく

自分たちの伝統文化を大切に

『典礼聖歌』も『カトリック聖歌集』や『賛美歌』（５４年版）と異なり、ほとんどが口語なのは、このような理由からです。

国語の聖歌とはいえ、教会の伝統から離れたものでも困ります。『典礼憲章』はこれらの作曲にあたって、作曲家は、この目的のために用いられているラテン典礼の伝統的旋律が国語文のための旋律を暗示することができるかどうかを考慮すべきである」（５６）と述べています。

「ミサの式次第」を見れば、奉献文の「栄唱」は、グレゴリオ聖歌のそれを日本語のイントネーションに合わせて用いていることが分かります。

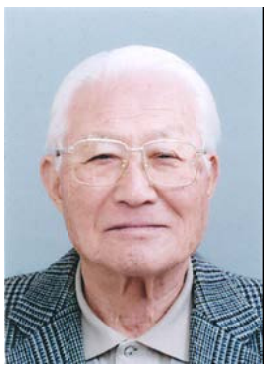
ヨーロッパ文化圏以外における、教会への伝統音楽の適応についても、同じ『典礼音楽に関する指針』で、「独自の音楽伝統を持っている地域では、聖なる事がらをその地域の人々の精神、伝統、特色ある表現に巧みに調和させること。この仕事に携わる人は典礼と教会音楽の伝統ばかりでなく、自分たちが奉仕をささげるその民族の言語、民衆の歌、独特の表現についてじゅうぶんな知識をもたなければならない」（６１）と述べ、日本のように、独自の伝統文化・音楽伝統を持つところでは教会音楽に携わる人々は、自分たちの音楽文化（それは、上流階級のものではなく、一般民衆のも）も研究するように求めているのです。

ひと

多くの教会行事のまとめ役

江ノ口教会　鶴見宗茂さん（90歳）

「昭和13年、高知駅裏の田んぼの中に教会が建ち、約1キロ離れた我が家からも十字架が見えました。」聖堂再建30周年をはじめ、信徒が集まるときには、言葉少なに、静かに教会の歴史を語ってくださいます。因みに氏の受洗は昭和26年。



南海化学にお勤めし、奥様ともどもよき信仰教育が窺い知ることができる今を築かれました。

田井先生（故人）との教会学校や、教区の青少年司牧などなど、賑やかな時を築いてくださいました。

工場長として退職なさった後は後進への教示はもちろんのこと、県内の技術者集団とともに、中小企業の省エネへの指導・啓発・協力に尽力することを嬉々として活動しておられました。

「技術屋さんはいいなぁ」とうらやましがられたり、尊敬されたりと退職後も活動されていました。

教会主催の巡礼、長きに亘った太田道子先生の聖書講座、聖心の布教姉妹会修道院が運営してきた施設児童のための尽力、そして一日里親、赤岡教会への「歩こう会」に参加して皆のまとめ役でした。

今、日曜日はご夫婦で歩いてミサに来られます。初金ミサ後の絵手紙は長く奥様のご指導をいただき、ご病人や教会にしばらくご無沙汰の方々にお便りを、また敬老会のご案内などに使い、温かなたよりとして人気です。

ご長男は昨年より江ノ口教会の評議会議長としてお働きいただいています。初めてミサに来られた方に、静かに語りかけておられる氏をお見かけするにつけ、長い教会生活に接して、生活の中にしっかり根ざす「みこころ」に改めて信仰の真のエネルギーを感じずにはいられません。

江ノ口教会　宮本匡士

新しいミサ典礼
聖歌の歌唱法を学ぶ
中島町教会で説明会

変更箇所の説明をする宋新司祭

7月26日（日）に高松教区典礼委員長の谷口助祭、宋司祭、桜町教会の佐藤様をお招きして、11月29日（待降節第1主日）から開始されるミサ典礼書の部分改訂に伴う新しいミサ典礼の説明会が中島町教会で行われました。

まず、ミサの前に、谷口助祭から典礼聖歌の歌唱法の御指導があり、ご自身でキーボードを演奏しながら「聖歌や答唱詩編は祈りですので、お祈りを唱えるように歌って下さい。」「歌う速さは、遅すぎると沈んだ感じに聞こえるので、お祈りを唱えるくらいの速さで歌うと美しく聞こえます。」という説明があり、桜町教会の佐藤様に答唱詩編のお手本を示していただきました。

いつも上手に歌うことを考えていましたが、歌うという意識ではなく唱えるのだと気づかされました。

続いてミサ後に、宋司祭からプロジェクターを使ってミサ典礼書の部分改訂の説明があり、ミサの中での所作等についてスクリーンに写真を示しながら、説明をいただきました。

新しく変わるというよりは、部分的には昔から行っていた所作であったものが、いつの間にか行わなくなったものを改めて行うと感じるところもありました。

「所作等は、原則を示すもので、今まで各教会で行って来ているものを全て否定するものではありません。担当司祭の指導のもとで話し合って下さい。」という説明がありました。

高知地区の中でも各小教区の教会で、少しずつ違う部分があるように、身に付いたものや慣れ親しんだものがありますが、神父さまのご指導のもと、新しいミサ典礼に移行していくように取り組んでいきたいと思います。

江ノ口教会　鶴見隆博

神学生便り
ベトナムの方々と共に

神学科3年　ヨゼフ 呉 文 成

わたしは、普段神学院で勉強しながら、過ごしますが、夏休みに入りますと、自分の所属教区に帰ってきて、過ごすわけです。今年の夏休みは、たくさんの活動がありました。そのため、其々の活動に参加させて頂き、貴重な体験をさせて頂くことが出来ました。

8月14日から15日にかけてカトリック岡山教会でベトナムの青年の集いが行われました。中国地方の岡山、鳥取、米子から多くのベトナムの若者が参加しました。

また、四国地方の坂出、高松、阿南からも9名の若者が参加して約１００名の参加となりました。それ以外、フィリピン人、インドネシア人、アメリカ人の若者も参加していただきました。

ベトナム舞踊を楽しむ

二日間のプログラムは本当に盛り沢山でした。たとえば、御ミサ、赦しの秘跡、御聖体賛美式、神学生の教話、聖母マリア行列、日本での生活の分かち合い、食事会などです。その中で日本での生活の分かち合いと聖母マリア行列の2つが一番印象に残っています。

この集いを通して、私たちが、ただ出会うだけではなく、みんなで連帯して、互いに信仰を守りながら、日々よりよい生活を送ることが出来るよう聖母マリアの取次ぎを願いました。

道をゆく聖母行列

医療のともしび（45）

医療費の心配をされている方々へ（上）

高齢化社会になって高額な医療費について心配されているお年寄りが多くいらっしゃいます。しかし、実際はそんなに恐れる必要はありません。そこで、今回は医療費の支払いの仕組みについてわかりやすくお知らせしたいと思います。

医療費が高額の場合には、所得の多寡によって自己負担する金額の限度額が法律で定められています。これが「自己負担限度額」です。自己負担限度額は上位所得者、一般、低所得者の3つに区分され、それぞれの金額の算出方法が決められています。（右表）

医療費が高額になることが見込まれた場合には、「限度額適用認定証」の交付を受けて病院に提出することで、窓口負担が通常の3割負担ではなく自己負担限度額で済みます。

例えば、一般（70歳未満で年収が6 36万円以下で非課税以上）の人が100万円かかる手術を受けた場合、3割の30万円ではなく、
80,100円+(1,000,000円−267,000円)×1%=87,430円
を窓口で支払えばよいのです。

次回もまた大切なポイントについてお知らせします。

聖マルチン病院　井原彰一

自己負担限度額一覧

70歳未満

被保険者の所得区分	自己負担限度額（一月当たり）
上位所得者（標準報酬月額53万円以上）	15万円＋（医療費−50万円）×１％
一般（上位所得者･低所得者以外）	80万1千円＋（医療費−26万7千円）×1%
低所得者（被保険者が市町村民税非課税等）	３万５千４百 円

70歳以上　外来を含む

被保険者の所得区分	自己負担限度額（一ヶ月）
現役並み所得者（標準報酬月額28万円以上）	80万１千円＋（医療費−26万7千円）×1%
一般（現役並み低所得者、低所得者Ⅰ・Ⅱ以外）	４万４千４百円
低所得者Ⅱ（被保険者が市町村民税非課税等）	２万４千６百円
低所得者Ⅰ（地方税法の規定による市町村民税に係る所得がない）	１万５千円

70歳以上　入院を含む

被保険者の所得区分	自己負担限度額（一ヶ月）
現役並み所得者（標準報酬月額28万円以上）	４万４千４百円
一般（現役並み低所得者、低所得者Ⅰ・Ⅱ以 外）	１万２千円
低所得者Ⅱ（被保険者が市町村民税非課税等）	８千円
低所得者Ⅰ（地方税法の規定による市町村民税に係る所得がない）	８千円

教区スケジュール

9月
1日（火）世界環境保護の祈願日
2日（水）岩永千一師命日（1周忌）
6日（日）年間第２３主日
8日（火）司祭評議会10:00〜15:00
10日（木）日本205福者殉教者　記
13日（日）年間第24主日　教区設立記念日
14日（月）十字架称賛　祝
15日（火）悲しみの聖母　記
19日（土）宣教司牧評議会役員会13：00
20日（日）年間第２５主日
21日（月）敬老の日
22日（火）国民の休日
23日（水）聖ピオ司祭　記　　秋分の日
24日（木）深堀敏司教命日（7回忌）
27日（日）年間第２６主日【世界難民移住移動者の日】
28日（月）聖トマス西と15殉教者　記
10月〈4〜25 第14回世界シノドス「家庭シノドス」〉
4日（日）年間第２７主日
7日（水）ロザリオの聖母　記
11日（日）年間第２８主日
12日（月）体育の日
18日（日）年間第２９主日【世界宣教の日】
25日（日）年間第３０主日
27日（火）顧問会10：30／静修14：00
31日（日）教区女性の会in江ノ口
テーマ「違いが豊かさになる教会共同体」

四百年は奇遇の数字　小豆島教会で右近祭

去る7月26日（日）諏訪司教主司式による4名での共同司式により「ユスト高山右近没後４百年記念・小豆島教会右近祭」を祝うことが出来ました。

今年は酷暑の中でしたが、格別ワクワクの右近祭でした。あの6月21日の国際聖歌交流会では、わが聖歌隊「オリーブ」も出演し、「愛の賛歌」（高田三郎作曲）と「オリーブの風薫る島で」（小豆島教会バージョン）の2曲を楽しく合唱できたからです。

すると何と驚いたことに、6月23日の新聞に、「高山右近“福者”認定へ。来年にも日本で儀式」。また、他の新聞では「ローマ法王庁、高山右近“福者に”」を目にしたのです。あのコーラスがローマに届いたのでしょう。

・バチカンのパパ様に届け愛の歌

小豆島教会を護る高山右近像

プネウマとなり福者

オリーブ園の大十字架を祝福されるために、時の教皇大使カルー大司教が小豆島を訪問された折、ミサを捧げるために小豆島教会にも来られたことを思い出します。

その年が何と右近の小豆島滞在４００年に当たるのです。その時、わたしも若く、嬉しくてカルー大司教の前で“オー・ソレ・ミオ”を歌ったものです。

・うたう心は右近　オー・ソレ・ミオ（私の太陽）

・フィリピンの　一六一五（いろいい）花や　サンパギータ

真白き風に千の風吹く

・右近殿　一六一五（いろいい）花や　四百年

二〇一五年　希望の花を

小豆島教会　濱野尚作

嬉しいソーメンのお振舞い

福島の子ども達がうどん作り楽しむ　大三島でキャンプ

うどん生地を伸ばす子ども達

福島第一原発事故当時、周辺の小学校に通っていた子供たちが、8月3日から4日にかけて、今治市の大三島でキャンプを楽しみました。

コーディネーターのツジモト教授の招きに応えたフランスの青年たちとの交流キャンプでした。高松教区からは神学生と「讃岐うどん食べさせ隊」が応援に駆け付け、子供たちのうどん作り体験や分かち合いなどを通して、楽しいキャンプをと友情を交わしました。

原発事故当日の体験を昨日のように話し、健康、家庭状況など厳しい環境にあることを小学生が分かち合ってくれました。

熱心に聞いていたフランスの青年たちとの出会いが、互いに「生きる勇気」をもらったと語りあう場面は感動的でした。本当にかわいい子どもたちでした。これからの歩

折鶴づくりに夢中な子ども達

資料提供へのお願い

番町教会は2022年、創立100周年を迎えます。そのための資料収集を計画しています。特に、創立当初から戦前の写真や教会報等をお持ちの方の協力をお願い致します。

番町教会　広報部　☏ 087-823-0430
FAX 087-823-0431

第43回教職員研修会　7/26-27

テーマ　見えないから　見えたもの

〈高松教区幼稚園連合会〉

2日間の研修会に参加して、視覚障害者の方の困難なことや主の祈りについて理解を深めることができました。

一日目の竹内昌彦先生のお話では、視覚障害者の方にとって困ることや便利な道具を紹介して頂き、点字ブロックなど普段目にするものから、音声のでる電卓などの初めて見るものまでたくさんの設備や道具を知りました。

軽妙な語り口の竹内昌彦先生

また、お話の中で『元気な身体をもらって自由に動けるほど、運の良いことはない』とおっしゃっていました。自分が健康であることが当たり前と思いがちでしたが、よく考えると自分の身のまわりにも身体に障害を抱えている人がいることに改めて気づかされ自分の為だけでなく人の為につかっていこうとおもいました。

二日目は『主の祈り』の言葉ひとつひとつを丁寧に取り上げていただき、み国とは?、私たちの日ごとの糧とは?と今まで「難しい言葉」としか捉えてなかったものが具体的に知ることができました。これからお祈りするとき、以前とは違ったお祈りになるだろうと思います。

長尾聖母幼稚園　安部千尋

竹内昌彦氏プロフィール
・岡山県立岡山盲学校講師
・社会福祉法人岡山県視覚障害者協会理事

熱心に聞き入る教職員

新　刊　書　籍　紹　介

■【漫画】コラッジョ!!

ドン・ボスコの夢は続く

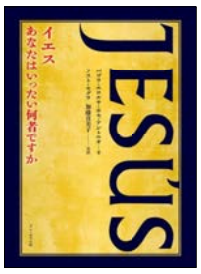
「レミゼラブル」のV.ユーゴーも心酔した神父、ドン・ボスコを世界待望の漫画化！

夢を描けず、人間関係に疲れている二人の高校生リクとマナが、不思議な子犬に導かれて19世紀のイタリアへ――そこで出会った神父＝ドン・ボスコとオラトリオの少年たちが共にいて、信じあい、あきらめない姿に、二人の心は動かされていく……

★ドン・ボスコ(Don Bosco)
1815年北イタリア生まれ。名前はジョヴァンニ・ボスコ。「青少年の友」と呼ばれ、助けを必要とする若者たちのために生涯をささげ、青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。

サレジオ会日本管区 原作
鈴木ぐり 作画　浦田慎二郎 監修
●A5判 並製 206頁定価 本体1,000円+税

■イエス　あなたはいったい何者ですか



イエスはいったい何者なのか。彼の強さと独創性はどこからくるのか。本書は、イエスの時代の生活様式や歴史を背景にイエスの具体的な行動、神の探求者としての生き方をさまざまな局面から提示し、イエスの真の姿を映しだす。

著者　パゴラ・エロルサ・ホセ・アントニオ1937年、スペイン生まれ。61年、司祭叙階。著書多数。
訳者　フスト・セグラ
1958年、司祭叙階。1958〜63年、米国ロスアンジェルスで司祭職。1963年3月に来日後、日本で司祭職に就く。
訳者　加藤喜美子
1958年、愛徳カルメル修道会入会。ホームレス支援、滞日外国人司牧などを行っている。

四六判並製　509頁　定価 本体1,400円+税

聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会　阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します
院内保育園完備

整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園